

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月15日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320133

研究課題名（和文） 藩世界と東アジア世界—西日本地域を中心に—

研究課題名（英文） The relationships between Han World and East Asia

研究代表者

紙屋 敦之（KAMIYA NOBUYUKI）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：00194978

研究成果の概要（和文）：

「藩世界」の広がりや、海禁体制を素材に、国内にとどまらず、東アジア地域を視野に入れて考察した。その際、海禁体制と西日本諸藩、藩世界と藩意識の2点を柱とし、長崎・琉球および対馬藩・薩摩藩・佐賀藩・福岡藩を中心に考察した。琉球使節のあり方と性格、琉球における書物・出版、大名家の相続と海禁体制との関係等々について明らかにした。また、九州・四国の大名の官位、長崎開港の活動、九州諸大名の参勤交代の3つのデータベースを構築した。

研究成果の概要（英文）：

We studied “Han world” with Sakoku system, considering not only the domestic matters but East Asia. In this study, we make much of two points, the relationships between Sakoku system and West Japan various clans, and interactions between “Han world” and the self-awareness, focusing on Nagasaki, Ryukyu, Tsushima-Han, Satsuma-Han, Saga-Han, and Fukuoka-Han. As a result, we reveal the state and nature of Ryukyuan emissaries, a conditions of book and published matters in Ryukyu, relationships between a descent of Lords and Sakoku system, etc. Also, we constructed three databases, status ranking of daimyos in Kyushu and Shikoku, activities of Nagasaki Kikiyaku, and Sankinkoutai of daimyos in Kyushu.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2011年度	2,800,000	840,000	3,640,000
2012年度	1,900,000	570,000	2,470,000
総計	8,400,000	2,520,000	10,920,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史、江戸時代、藩世界、海禁体制、官位、長崎開港、東アジア、琉球

1. 研究開始当初の背景

我々は藩世界という新しい概念を提示した。農民や町人、職人などの諸身分や寺社および信仰集団という藩領域内の諸々の存在、そして藩権力を含め、それら諸々の存在が作り出す相互の関係や、藩権力や領内諸身分・諸集団と幕府・朝廷・他藩など領域外の諸集団との間で形成される諸関係、さらには朝鮮・琉球などの東アジア世界との関係をも含めて、藩というものを捉えるべきとした。したがって、藩とは、個別藩領域に限定されることがない広がりを持ち、多様な人々によって多様な姿を形作るもので、このような藩のあり方を、藩世界という言葉で捉えた。

我々が藩世界という概念を提示した頃から、藩の研究は新たな展開を見せている。藩世界という視角からの研究、尾張藩社会の総合研究、松代藩を素材とした藩地域の研究、畿内非領国地域における中小譜代藩の研究、佐賀藩を素材とした「藩国と藩輔」という視角からの研究などがそれである。これらの研究は相互に意見交流を持ち、問題意識を深めてきている。藩世界の研究が、新たな研究潮流を支える一つとなっており、一層の深化が求められている。

2. 研究の目的

2001年度～2003年度および2005年度～2007年度に科学研究費補助金を得て研究を進め、

- (1) 幕府の「海禁」体制が直接的に、あるいは間接的に藩世界に影響を及ぼしていること、
- (2) それは個別藩に現れるとともに西日本地域全体を一つのまとまりとして現れてくること、がより鮮明となった。

そこで藩世界の広がりを「海禁」体制を素材に、国内にとどまらず、東アジア地域を視野に入れて考察することとした。「海禁」体制は、長崎を中心に西日本の14藩が「異国船御

用組合」に編成されて形作られ、長崎やこれら諸藩に大きな影響を与えた。さらに、波及的影響が、その周辺地域にも及んだ。このような「海禁」体制のあり様を踏まえ、「異国船御用組合」14藩の広がりの中で「海禁」体制をまず捉え、さらにその波及的な影響を西日本全体で考えていくという研究階梯を設定し、長崎・琉球および14藩中主要な対馬藩・薩摩藩・佐賀藩・福岡藩を中心的に考察することとし、その際、以下の2点を柱として考えた。

(1) 「海禁」体制と西日本諸藩

(2) 藩世界と藩意識

このため、外国使節である朝鮮通信使の馳走役のあり方、琉球使節と芸能、国家儀礼、西日本における長崎の文化的地位、外国の学問・文化・情報の受容、「海禁」体制と「家役」意識、長崎開港と藩世界、家の相続と家格、「海禁」体制と地域民衆の役負担と意識形成、「海禁」体制とキリシタン取締などの小課題を設定し、その追及によって、藩世界の広がりを明らかにしていくとした。

3. 研究の方法

「目的」で述べた具体的な課題一つ一つを研究代表者・分担者・協力者で分担し、同時並行的に史料調査・研究を進めていった。2010年度は対馬の対馬歴史民俗資料館、沖縄の沖縄県立図書館・琉球大学附属図書館・沖縄県立博物館・那覇市歴史博物館・浦添市立図書館沖縄学研究室・沖縄県公文書館で調査を行い、2011年度は宮崎県都城市の都城島津邸伝承館、飫肥市の飫肥城歴史資料館・豫章館・振徳堂、2012年度は五島観光歴史資料館・佐賀県立図書館で調査を行い、必要に応じてデジタルカメラ撮影あるいはコピーにより史料を収集し、考察を進めた。

併せて研究を進めるための基礎的なデー

データベースとして、九州・四国の大名についての官位叙任に関するデータ、九州諸大名の参勤交代に関するデータ、長崎開役の活動のあり方のデータの構築作業を進めた。

4. 研究成果

如上の活動の中で、成果の一部を『対馬・沖縄調査報告集』（2012年3月）、『宮崎調査報告集』（2012年12月）としてまとめた。さらに、3年間の活動のまとめとして報告集『藩世界と東アジア世界—西日本地域を中心に—』を作成し、対馬藩宗家の仮養子史料（大森映子）、対馬藩田代領における宝暦期「宗意心得違」一件（その2）（大橋幸泰）、明治初年の倭館からの書状（木村直也）、対馬藩の武備と領内鉄砲に関する史料について（齋藤悦正）、江戸立の旅役所について（紙屋敦之）、琉球使節と東照宮参拝（泉正人）、琉球における「書物・出版と社会変容」研究序説（若尾政希）、『安国記』の教誡（深谷克己）、一五〇〇年朝鮮国王国書について（紙屋敦之）、都城嶋津家と江戸幕府（大森映子）、都城嶋津邸所蔵「御文書令臨」小考（泉正人）、近世大名にとって官位はどのような意味があったか（堀新）、熊本県立図書館所蔵「江戸江差上候御帳之扣（肥後国）」の再検討（堀智博）の諸成果を収めた。

また、近世大名官位叙任データ（稿）、長崎開役の活動データ、九州諸大名の参勤交代データを構築し、上記報告集に収めた。

以上の活動を踏まえ、今後は「藩世界と海域アジア」をテーマとして、16世紀後半から17世紀前半にかけての日本と東アジアとの動きを、藩世界の視点から研究を進めていくことを計画している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 35 件）

- (1) 紙屋敦之「冊封から非冊封へ」（『文学』第13巻第5号、2012年）、192—193頁、査読無。
- (2) 大橋幸泰「村社会の宗教情勢と異端的宗教活動」（『歴史評論』743、2012年）、66—80頁、査読無
- (3) 大森映子「大名相続における女性」（『歴史評論』747、2012年）、50-63頁、査読無。
- (4) 堀新「織豊期王権の成立と東アジア」（『歴史評論』746、2012年）、19—34頁、査読無。
- (5) 若尾政希「太平記読み—『太平記評判秘伝理尽鈔』の位置」（『アジア遊学』155、2012年）、132—137頁、査読無。
- (6) 紙屋敦之「近世の南西境界史」（『日本史の研究』235号、2011年）、1—14頁、査読無
- (7) 大橋幸泰「島原天草一揆と近世人」（『キリシタン文化研究会会報』137、2011年）31—48頁、査読無
- (8) 深谷克己「脱アジアという日本異質論の克服」（『歴史評論』729、2011年）、28—42頁、査読無。
- (9) 深谷克己「藩とはなにか—日本の近世化と近代化を考える—」（『加賀藩研究』1、2011年）、1—12頁、査読無。
- (10) 若尾政希「『太平記』は尊王の書か？—『太平記』をして史学に益あらしめん—」（『歴史評論』740、2011年）、36—51頁、査読無

〔学会発表〕（計 6 件）

- (1) 若尾政希「近世における「日本」意識の形成」（青山学院大学「近代国家形成の比較史的研究」プロジェクト（招待講演）、2012年12月5日、青山学院大学）
- (2) 紙屋敦之「寛政8年琉球使節の江戸上りについて」（第36回芸能史研究会東京例会（招待講演）、2012年12月2日、法政大学）
- (3) 大橋幸泰「近世後期の宗教統制と異端的宗教活動—天草を事例として—」（全国かくれキリシタン研究会第23回天草・島原大会、2011年10月22日、天草シーサイドホテル）。

- (4) 堀新「織豊期王権の論じ方」(九州史学研究会(招待講演)、2011年10月15日、九州大学)。
- (5) 大橋幸泰「キリシタン禁制の変容と潜伏キリシタン」(学習院大学東洋文化研究所プロジェクト「G・W・ライブニッツの中国布教論—比較思想史の視点から—」、2011年3月3日、学習院大学)。

[図書](計10件)

- (1) 紙屋敦之『東アジアのなかの琉球と薩摩藩』(校倉書房、2013年)、332頁。
- (2) 深谷克己『東アジア法文明圏の中の日本史』(岩波書店、2012)、295頁。
- (3) 若尾政希『近世の政治思想論』(校倉書房、2012年)、369頁。
- (4) 堀新『織豊期王権論』(校倉書房、2011年)364頁。
- (5) 大橋幸泰・深谷克己編『〈江戸〉の人と身分6 身分論をひろげる』(吉川弘文館、2011年)、233頁。
- (6) 山本博文・堀新・曾根勇二編『消された秀吉の真実』(柏書房、2011年)、325頁。

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等
無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

紙屋 敦之 (KAMIYA NOBUYUKI)
早稲田大学・文学学術院・教授
研究者番号：00194978

(2) 研究分担者

・大橋 幸康 (OHASHI YUKIHIRO)
早稲田大学、教育・総合科学学術院、教授
研究者番号：30386544

・大森 映子 (OOMORI EIKO)
多摩大学・経営情報学部・教授
研究者番号：60159233

・木村 直也 (KIMURA NAOYA)
産業能率大学・経営学部・教授
研究者番号：50192018

・深谷 克己 (FUKAYA KATUMI)
早稲田大学・文学学術院・名誉教授
研究者番号：20063696

・堀 新 (HORI SHIN)
共立女子大学・文芸学部・教授
研究者番号：80296524

・若尾 政希 (WAKAO MASAKI)
一橋大学・社会(科)学研究科・教授
研究者番号：80210855

(3) 連携研究者

無し

○研究協力者

・泉 正人 (IZUMI MASATO)
早稲田大学・法学学術院・講師

・斎藤 悦正 (SAITOU YOSHIMASA)
早稲田大学、教育・総合科学学術院、講師